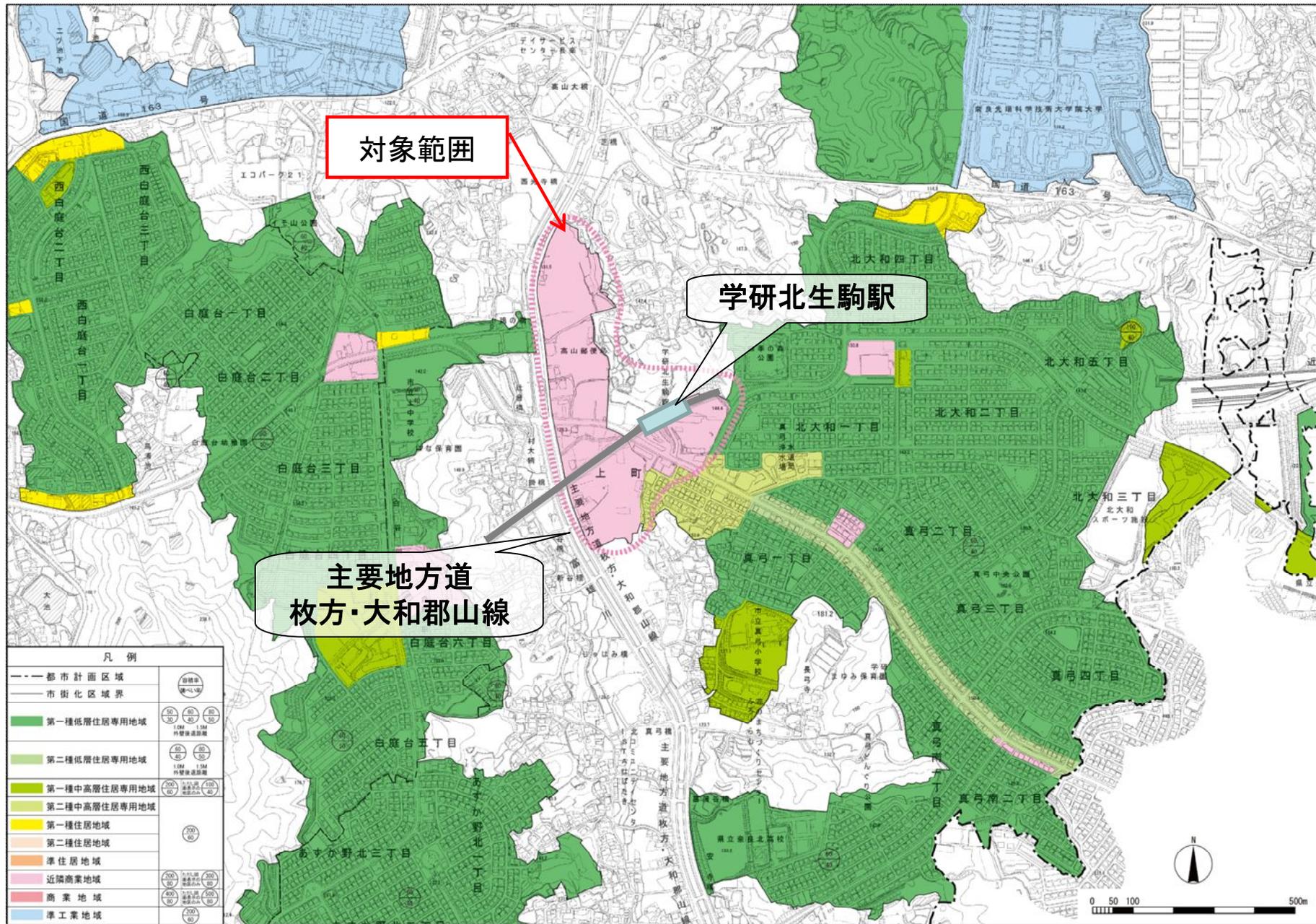


# 学研北生駒駅周辺のまちづくり

平成26年2月9日

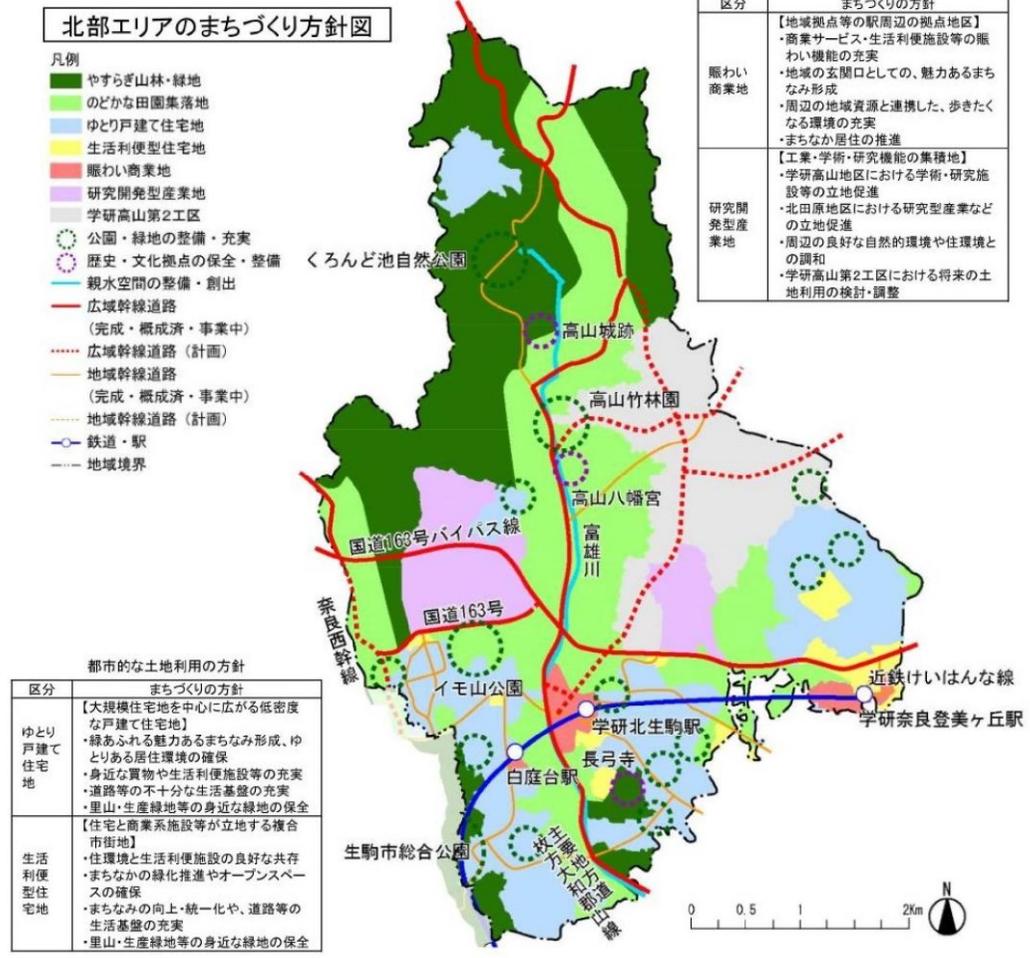
生 駒 市

# 1 まちづくり構想の概ねの対象範囲



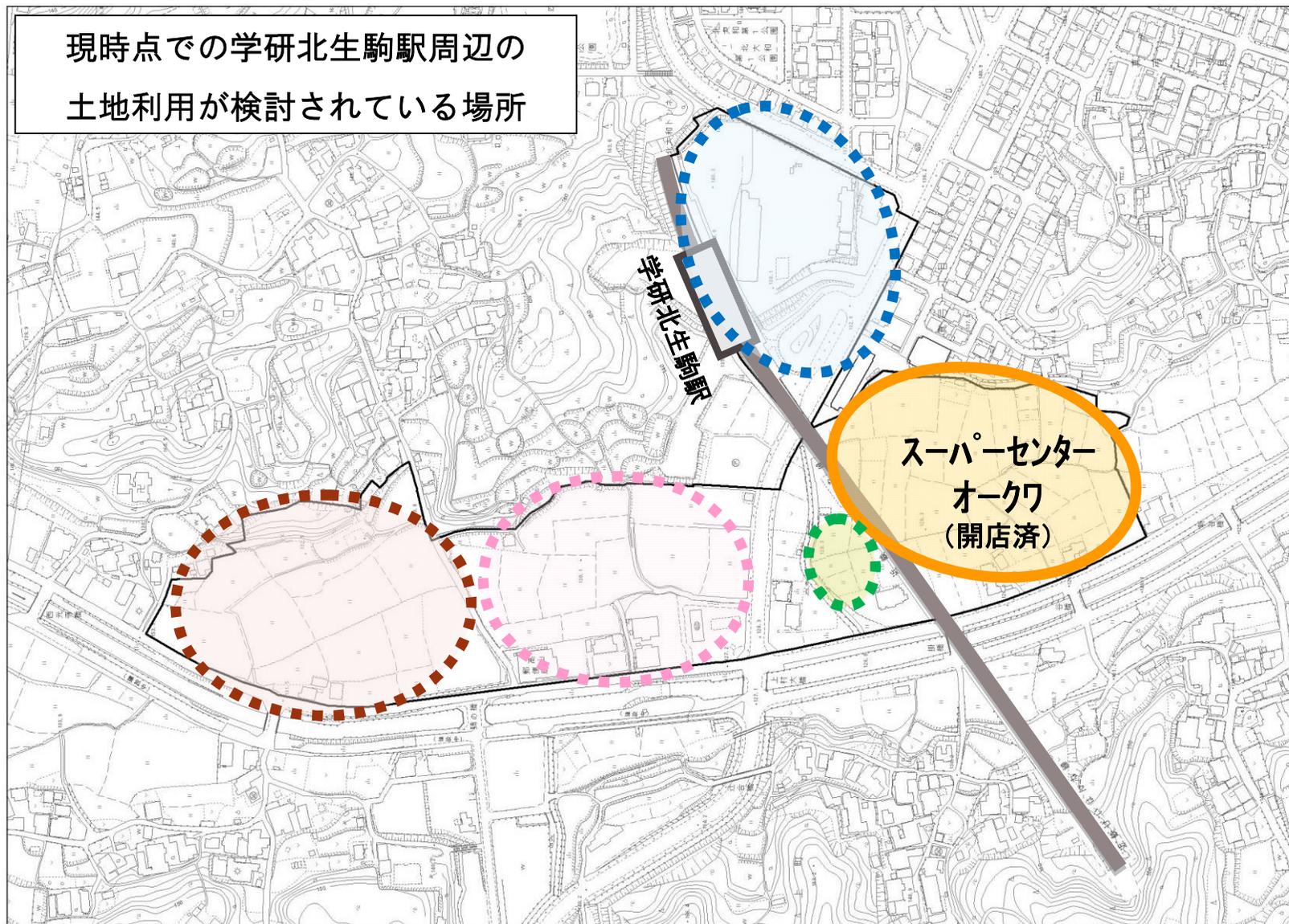
## 2 学研北生駒駅周辺地区の位置づけ

- 第5次総合計画及び都市計画マスタープランでは「**地域拠点**」の「**賑わい商業地**」と位置づけられています。



### 3 地区の状況

- 沿道を中心に大規模商業施設等の立地が検討されています。



## 4 まちづくりの課題

- **北部地域の拠点にふさわしい土地利用の実現**
  - ● ● 地域拠点にふさわしい賑わいや交流を生み出すような土地利用を図っていくことが必要
- **駅周辺の一体的な市街地形成のための都市基盤の整備**
  - ● ● 学研高山第2工区の今後の動向も視野に入れて柔軟に対応できる都市基盤の整備が必要
- **関係主体の連携・協力による一体的なまちづくりの推進**
  - ● ● 当地区に関わる関係主体間における将来ビジョンの共有化と将来ビジョン実現に向けた連携・協力が必要

## 5 市が考えるまちづくりの進め方

市としては、次の2点を大切にしたいまちづくりを進めていきたいと考えています。

- ① 関係主体がともに学研北生駒駅周辺のまちづくりを考えることができる
- ② そこで共有された“まち”の実現に向けて協働で取り組むことができる



そのきっかけのひとつとして、事業者や地権者等と一緒に「**学研北生駒駅周辺まちづくり会議**（以下、**まちづくり会議**）」を立ち上げ、皆様の意見を聞きながら学研北生駒駅周辺のまちづくりを考え、「**まちづくり構想**」として取りまとめていきたいと思っています。

## 6 まちづくり構想に期待されること

### ◎まちづくり構想がある場合…

- ✓地区全体の街並みや景観に配慮した統一感やまとまり感のある拠点性の高いまちづくりを考えることができる。
- ✓地域の玄関口である学研北生駒駅を中心としたにぎわいづくりを考えることができる。
- ✓まちが完成した後も、地域が主体となった管理・運営を行うことができる「エリアマネジメント」の仕組みづくりにつなげることができる。

など



まち全体が共通のコンセプトに基づき、  
「統一感と拠点性をもったまちづくり」や  
「地域のブランド力が向上する」ことが期待できる

## ◎まちづくり構想がない場合…

- ✓土地の所有者や利用者が個別に経済合理性を追求した土地利用が進められた結果、地区全体としての利益が阻害されたり、個別バラバラの魅力のないまちになる。
- ✓駅前であるにも関わらず幹線道路（高山富雄小泉線）のみに顔を向けた街並みとなり、駅側に相応しい街並み（顔づくり）が出来ないことが懸念される。
- ✓まちなみの統一感もなく、特徴のない一般的なロードサイド型の商業地となってしまう。

など

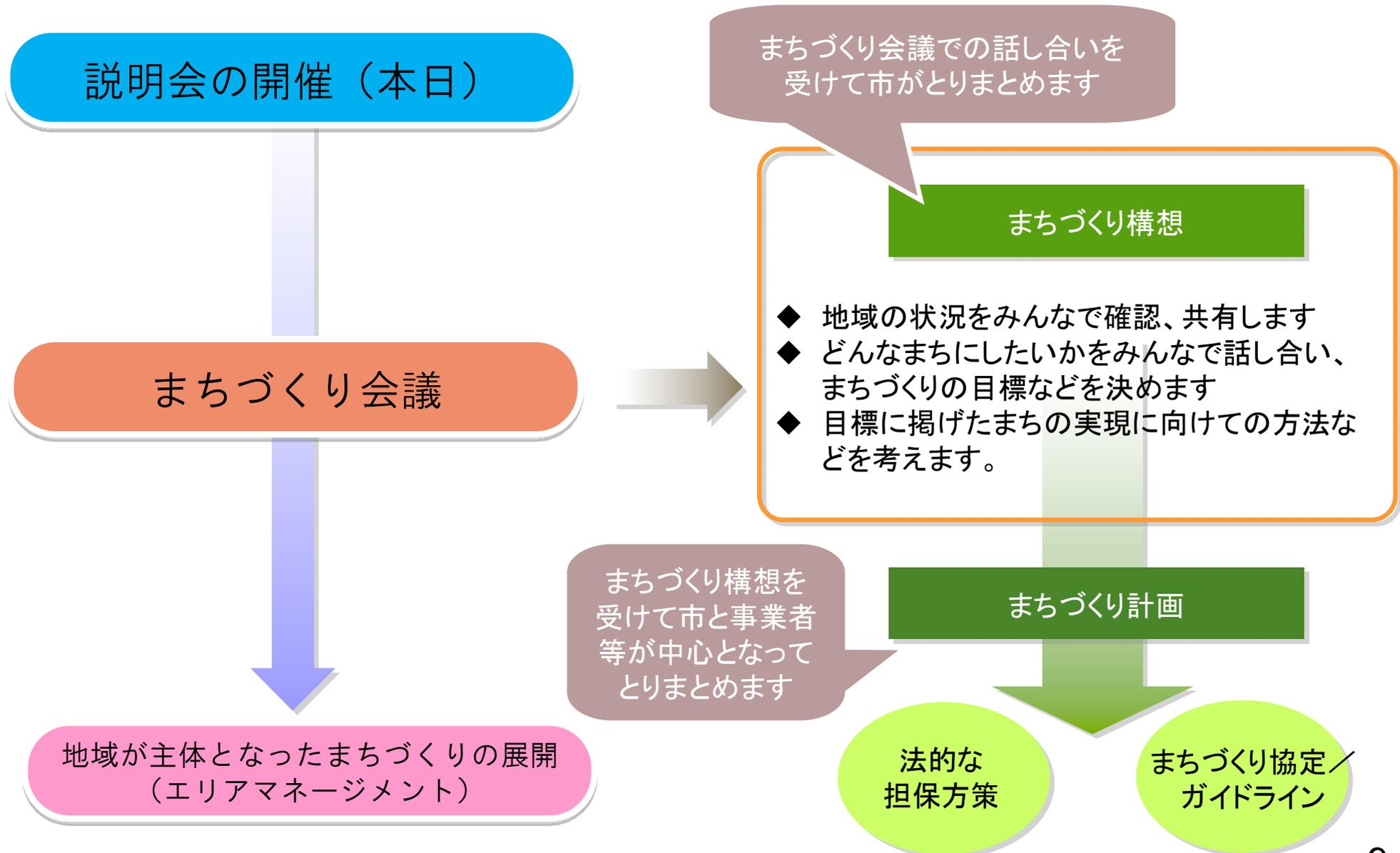


まち全体のコンセプトがなく、  
まちなみの統一感もない、  
ありきたりの駅前地区になる

# 7 まちづくり会議構成メンバー

- 事業者代表
  - 法人地権者代表
  - 個人地権者代表
  - 地元代表（自治会） 【上町・芝・北大和】
  - 学識者：松村暢彦（大阪大学大学院准教授）
  - 生駒市
- 計15～20名程度

# 8 進め方と検討内容



# 9 まちづくり構想のイメージ

## まちづくりの課題

当地区のまちづくりをめぐる状況と現況を把握した上で、まちづくりの課題を導く

## まちづくりの目標

まちづくりの課題に対応して  
関係者の間で共有するまちづ  
くりの目標を定める

## まちづくりの方針

まちづくりの目標を実現していくための方針  
として基盤施設の整備、土地利用、市街地環境  
形成などの方針を定める

## 実現に向けた方策

自立的な取り組みにより構想を実現していくための方策として、まちづくりのルールの内容と運営（担保）の方法、エリアの魅力を高めるためのブランドづくり、環境にやさしいまちづくりなどのマネジメント取り組みをさだめる